



西部管内の
講座関係のHP

清水小学校 道徳科 授業づくり講座 第1回 教材研究会・授業研究会

今回は、土佐清水市立清水小学校で行われた、1セット目の授業づくり講座の様子を紹介します。



清水小学校のコンセプト : 自分の生き方について、なかまと共に考えを深める道徳教育

第3学年「ぬれた本」(廣済堂あかつき)

【主題名】正直に生きることのよさ 【内容項目】正直、誠実A(2)

授業者

池本 晃翔 先生

【授業を通して引き出したい児童の考え】
・怒られなくて良かったり、ごまかしたりしたこともあったけど、正直に言うと気持ちがすっきりするんだな。
・ごまかしてしまうと、ずっともやもやしてしまうから、正直に言うと、怒られてしまうけど、すっきりとした気持ちになると思う。
・失敗してしまったときに、ごまかしてもやもやし続けるように、正直に謝りたいと思う。
・正直な気持ちが伝わるように、ごまかさず心を決めてあやまるようにしていきたいと思う。

本時のねらい

借りた本を濡らしてしまった少年のその後の行動や思いを共感的に理解することを通して、正直に生きることのよさに気づき、過ちを素直に認め、正直な心を大切にする道徳的心情を養う。

授業を通して引き出したい子供の考えを明確にしておくことが大切です! 子供の実態から、しっかりとイメージしておきましょう。



研究協議では、次の①②の2点について事前に自分だったらどうするか考えてきてもらい、それを基に、各グループで活発な協議が行われました。

①指導上の工夫

★多面的・多角的に捉えるための工夫 ★主題に迫るための工夫

| | |
|---|---|
| <p>【指導の要点】 場を犯してしまったとき、間違えたこと知りながらうそをついたり、ごまかしたりしてしまうと悔い気持ちになってしまう。正直であれば、明るい心で悔いを感じた生活を送ることができる。本を濡らしてしまった主人公の葛藤に共感させる中で、正直でありたいという心と、ついごまかしたりうそをついたりしようとする心があることに気づかせ、自身の過ちを素直に認め、正直に生きることのよさについて考えさせる。</p> <p>【主題に関わる児童の実態】 ・素直に間違いを認め、明るい態度で生活している。 ・素直に間違いを認めることができず、ごまかしたり、うそを言ったりする児童もいる。 ・死なれることを恐れ、その場しのぎのうそをついてしまうことがある。 ・友だちや教師に自分の気持ちを正直に話すことが難しい児童もいる。</p> <p>【授業を通して引き出したい児童の考え】 ・怒られなくて良かったり、ごまかしたりしたこともあったけど、正直に言うと気持ちがすっきりするんだな。 ・ごまかしてしまうと、ずっともやもやしてしまうから、正直に言うと、怒られてしまうけど、すっきりとした気持ちになると思う。 ・失敗してしまったときに、ごまかしてもやもやし続けるように、正直に謝りたいと思う。 ・正直な気持ちが伝わるように、ごまかさず心を決めてあやまるようにしていきたいと思う。</p> | <p>【板書計画(ポイントのみ)】</p> <p>仕事を三日やり続けた少年の思いや、おじさんが本をプレゼントしてくれたことから多面的・多角的に考えたり、主題に迫ったりすることもできそう!</p> |
|---|---|

「正直に行動することのよさ」に気付かせたいよね!
導入で自己内対話させ、もやもやした経験があるか思い出させるのは?
それを終末と関連付けて、最後は今後に繋げてスッキリできるようにしては?

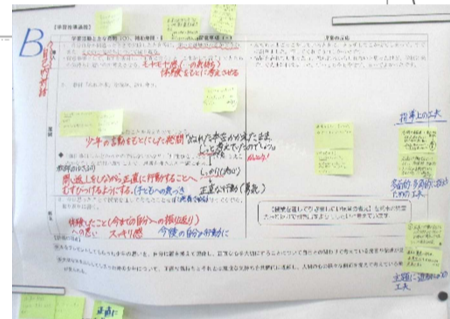


少年が「じっと考えていた」のは、ごまかそうだけではなく、どうすればよいか。ここを中心発問にすることで主題に迫れるのでは?

②学習指導過程

★中心発問 ★主題に迫る問い返し

| | |
|--|-----------|
| <p>学習活動と主な発問(○)、補助発問・問い返し(◇)、留意事項(△)</p> <p>導入 1. 自分自身が間違えたときや失敗したとき等に、謝った経験があるかどうか、また、その時の気持ちについて振り返る。 留意事項として、ICTを活用し、「正直に言う」と「ごまかして言う」のどちらの気持ちに近いのか考えさせる。</p> <p>2. 教材「ぬれた本」を読み、話し合う。</p> <p>○中心発問(案) 仕事をしながら少年はどんなことを考えたのでしょうか。 ◇「類仕事はしんどかったのではないかな?」「類仕事をしたら許してもらえないかな?」など問い返すことで、思考を誘導し主題に迫る。</p> <p>3. 今日思ったことや授業を通して考えたことを自分自身と関連付けてながら、振り返りに書く。</p> | <p>終末</p> |
|--|-----------|



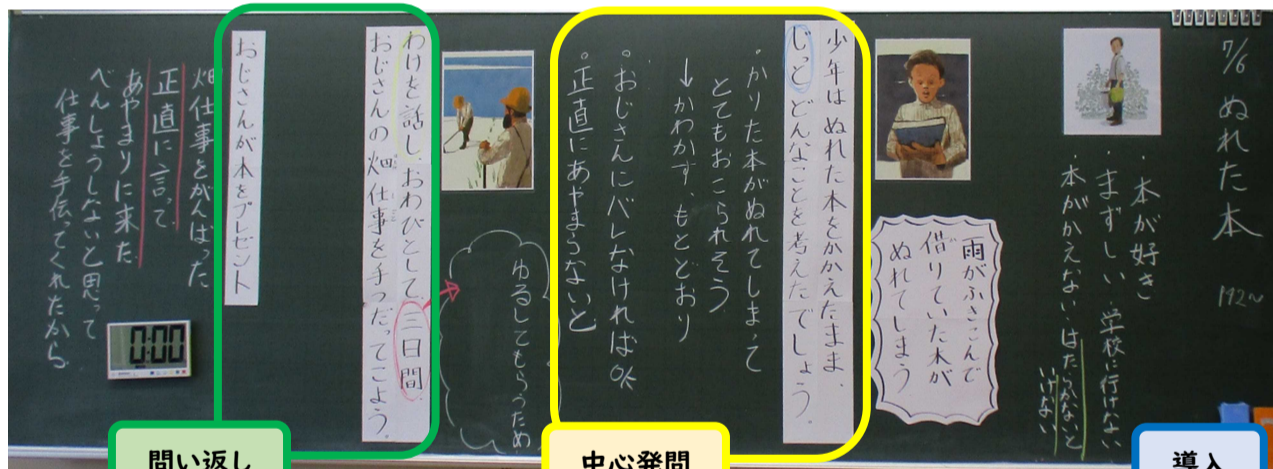
★教材研究会の参加者からの気づきや学びは…

- 一つの教材について、色々な視点で自分事として捉えることができたように感じました。引き出したい考えをたくさん考えておくことの重要さも分かりました。
- 指導書通りではなく、学級の児童の実態に合った授業づくりの重要性を改めて学ぶことができました。
- 道徳アンケートでICTを活用し、児童の実態を知ることや、教材の副詞にこだわり、心の動きに迫るなど、具体的な方法を知ることができ、今後生かしていきたいと思いました。また、子供たちが自分のことを伝えられる環境、学級づくりの大切さについても考えさせられました。

教材分析シートで考えると…

| | | |
|----------|--|---|
| 教材の概要 | <価値を望んで望ましい姿、導き(+)> (複数の価値が対立する教材は価値別の分析) | <価値の実現が望ましい姿、導き(-)> |
| | 正直に謝る 自分に正直 | ごまかす うそをつく |
| 指導の要点 | 心の弱さに打ち勝つ強さ 素直に反省する気持ち | 相手の気持ちを考える 勇気を出す 正直な自分でありたいと思う気持ち |
| 問題・課題の設定 | 正直に言えなかったとき、もやもやするのはどうしてだろう? | |
| 中心発問 | ◎少年はぬれた本をかかえたまま、じっと、どんなことを考えたのでしょうか。 | |
| ねらい | 借りた本を濡らしてしまった少年のその後の行動や思いを共感的に理解することを通して、正直に生きることのよさに気づき、過ちを素直に認め、正直な心を大切にする道徳的心情を育てる。 | |

板書



問い返し

中心発問

導入

◆ばれなかったらいいの?
◆父母に言わなくてもおじさんにだけ話したらいいんじゃない?
◆どうして三日間働いたの?
◆おじさんはどうして本をプレゼントしてくれたの?

問い返しをすることで揺さぶったり深めたり、他の立場から多角的に考えることで主題である「正直に生きることのよさ」について考えを深め、自分自身に正直でありたいという気持ちに気づかせるようにする。

ポイント

問い返しや揺さぶりで思考を深め、主題に迫る
～引き出したい子供の考えに迫る～

◎少年はぬれた本をかかえたまま、じっと、どんなことを考えていたでしょう。
葛藤する少年の心情に共感させる中で、正直であろうとする心の素晴らしさに気付かせ、自身の過ちを素直に認め、正直に生きることのよさについて考えさせる。

ポイント

ねらいに迫るための中心発問を行う
～行間や副詞に注目～

導入で、ICT(一人一台端末)を活用し、正直に言えなかった経験について振り返らせることで、「正直に言えるときと言えないときがあるのはどうしてかな?」「正直に言えなかったときももやもやするのはどうしてだろう?」と子供自身が問いを持つきっかけをつくる。

ポイント

ICTで道徳的価値に関する行動や考え方について可視化する



池本 先生より

教材研究の大切さを改めて感じました。
★教材研究会からの学び
教材研でたくさん意見をいただき、色々な視点から教材を見ることができたが、それを盛り込み過ぎてしまったため、もう少し焦点を絞って問い返しをすればよかった。

★子供が考える授業に
児童理解をしっかりした上で、主題に迫る工夫を行い、子供が考える授業をすることが大切。

☆参加者の声☆

- 学習指導要領の指導の要点を意識して、授業をつくっていききたい。
- 中心発問を考えると、ねらいをはっきりさせて深められるよう、自分自身がまず児童の実態などを考慮して考えることが大切だと思った。
- OICTの活用では、自己を見つめることや、他者のことを知ることなど、より効果的な内容を考えていきたい。



おもしろかったです!

教材研究会では、グループ協議が終わった後、「あーおもしろかった!」という声が聞こえたり、この会の後、参加者の方から、「みんな教材研究する楽しさが分かりました!」という感想もいただきました。また、教材研究会、授業研究会と、1セット通して参加して下さった先生もおられました。拡大校内研をコンセプトに、参加者が自分事として考え、みんなで作る道徳科の授業を目指し、清水小学校の先生方が中心になって、授業づくり講座を進めてこれたからだだと思います。本当にありがとうございました!

教材研究会

授業研究会